

表 1.2-1 本評価調査の評価の枠組み

評価対象： ボリビア基礎生活分野協力 評価対象時期：1996～2000 年度				
評価視点	評価項目	評価内容	情報入手手段	情報入手先・留意点
I. 目的	ボリビア国基礎生活分野協力の背景にある基本的な理念・考え方は妥当なものであったか	(1)旧 ODA 大綱、中期政策と擬似プログラムの整合性	旧 ODA 大綱、中期政策と擬似プログラムの目的の関連性を分析する。	外務省ホームページ
		(2)開発課題体系図と擬似プログラムの整合性	開発課題体系図に擬似プログラムを位置づける。	開発課題体系図の完成、擬似プログラムの目的を設定する。
		(3) 相手国の開発計画にあるニーズ、優先度との整合性 1) ボリビア国家開発計画、当該セクターの重点課題等と我が国の協力との間に整合性があるか（貧困層へのターゲティングが十分であったかどうかも検討） 2) 他ドナーが把握していたボリビアの開発ニーズや優先度と我が国の基礎生活分野協力との間に整合性があるか。	1) 擬似プログラムの目的 ボリビア国家開発計画、基礎生活分野関連セクターの中長期政策 ボリビア政府の計画省やその他関連省庁関係者への聞き取り調査 2) 擬似プログラムの内容と目的 世界開発銀行の CAS、他 他ドナーODA 関係者への聞き取り調査 基礎生活分野の開発課題体系図	1) 外務省経済協力局、保健省、教育省、基礎サービス局、大衆参加省、現地 NGOs、現地有識者 2) 外務省ホームページ、外務省または大使館、世界銀行、米州開発銀行、USAID、GTZ、スペイン、オランダの援助機関ホームページや関係者
II. プロセス 擬似プログラムの計画過程及びおよび実施過程を対象とした分析	計画過程の適切性	(1) 個別案件形成時に、どの程度以下の連携を念頭においていたか。 我が国実施の個別案件との連携（スキーム別の連携なども検討） 開発課題のセクターサブ目標との連携（取り組んでいく順番） 他のドナーとの連携	(1) 1) 擬似プログラムに係る資料 2) 擬似プログラムに係る外務省と大使館のやりとり記録（電報など） 3) 関係者への聞き取り 4) JICA の関連案件担当者への聞き取り 5) 他ドナーODA 関係者への聞き取り調査	(1) 1)、2) ・外務省、JICA ホームページ ・外務省経済協力局 ・大使館 3)・当時の経済協力局職員 ・当時の大使館員 4) 当時の JICA 職員 5) 当時のボリビア政府職員